

## 第8回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和5年1月24日（火）

18時～19時30分

会場：長野県伊那合同庁舎 講堂

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 挨拶

#### 3 会議事項

- (1) 第7回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 【資料1～3】
- (2) 第2回校地検討会議（12/20）の報告 【資料4】
- (3) 学校像のイメージ（たたき台）について 【資料5】
- (4) 意見交換

#### 4 その他

次回（第9回）の予定

【日時】 令和5年2月24日（金） 18：00～19：30

【会場】 長野県伊那合同庁舎 講堂

【内容】 新校の学びのイメージについての意見交換

#### 5 閉 会

## 上伊那総合技術新校「新校再編実施計画懇話会」構成員

○印 令和5年1月からの構成員

	区分	氏名	所属等	役職等	G
1	自治体	山田 勝己	辰野町	副町長	B
2		浦野 邦衛	箕輪町	副町長	A
3		田中 俊彦	南箕輪村	副村長	F
4		小平 操	駒ヶ根市	副市長	G
5		笠原 千俊	伊那市教育委員会	教育長	C
6		加藤 孝志	宮田村教育委員会	教育長	座長
7	産業界	松井夕起子	辰野町商工会	代表	A
8		漆戸 豊徳	箕輪町商工会	代表	B
9		堀井 一政	南箕輪村商工会	工業部会長	D
10		山下 政隆	駒ヶ根商工会議所	副会頭	C
11		向山 賢悟	伊那商工会議所	副会頭	F
12	同窓会	篠平 良平	辰野高等学校同窓会	会長	G
13		小河 節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長	F
14		清水 満	上伊那農業高等学校同窓会	会長	D
15		鈴木 正志	駒ヶ根工業高等学校同窓会	会長	E
16	PTA	武田 香代	辰野高等学校PTA	会長	D
17		小澤 七重	箕輪進修高等学校PTA	会長	G
18		井口 正宏	上伊那農業高等学校PTA	会長	E
19		小池美香子	駒ヶ根工業高等学校PTA	副会長	A
20	学校関係者	根橋 健治	上伊那中学校長会（西箕輪中学校長）	副会長	G
21		塩澤 秀彦	上伊那小学校長会（長谷小学校長）	副会長	F
22	学識経験者	松島 憲一	国立大学法人信州大学農学部	教授	C
23		武久 泰夫	南信工科短期大学校	副校長	B
24	地域	竹村浩一郎	上伊那地域振興局	局長	E
25	統合対象校関係者	小口 直喜	辰野高等学校	校長	E
26		小林 敏明	箕輪進修高等学校	校長	D
27		平沢 一	上伊那農業高等学校	校長	A
28		福澤 竜彦	駒ヶ根工業高等学校	校長	B
29		○伊藤 七海	辰野高等学校	生徒会長	F
30		○松山 吹希	箕輪進修高等学校	生徒会副会長	C
31		○飯塚 咲絵	上伊那農業高等学校	生徒会長	B
32		○平澤 晃洋	駒ヶ根工業高等学校	生徒会長	D

### 【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰野	加藤 泰久（教頭） 丸山 末広 吉村 恭弘
箕輪進修	岩田今朝宣（教頭） 田中 俊生
上伊那農業	武藤 穰（教頭） 境 久雄 山下 昌秀 若林 誠司
駒ヶ根工業	谷口 光治（教頭） 竹内 浩一 甕 力 和田 和代

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	山岸 明	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	田中 聡	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

## 第7回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

<b>日時・会場</b>	令和4年(2022年)11月29日 18時00分～19時30分 長野県伊那合同庁舎
<b>出欠席 (敬称略)</b>	懇話会構成員:29名(3名欠席:山田 勝己、篠平 良平、松島 憲一) 事務局:県教委4名(宮澤参事兼室長、山岸主幹指導主事、田中主任指導主事、石井主事) 辰野高校3名、箕輪進修高校2名、上伊那農業高校4名、駒ヶ根工業高校3名
<b>傍聴者</b>	傍聴者5名、報道3社
<b>会議事項</b>	(1) 第6回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 探究学習について (3) 校地検討会議について (4) アンケート調査の結果について (5) 意見交換(目指す学校像、育てる生徒像、設置学科、地域連携、学びの環境づくりについて)
<b>当日資料</b>	第7回懇話会(資料)、アンケート(まとめ)、校地検討会議開催要綱、意見交換シート

### 構成員から出された主な質問・意見

(5) 意見交換で出された主な意見

<目指す学校像、育てる生徒像について>

- ・地域の人材を育てたい。
- ・将来の希望がかなえられるような教育を。
- ・専門性と社会性をともに育てたい。
- ・コミュニケーション能力のある生徒。また自分の可能性を広げ、自己肯定感の強い生徒を育てられる教育を。
- ・最近はとても良い学生が多いが、何かトラブルにあった時に精神的に弱い。耐性が強い生徒を。
- ・人間力、吸収力等、社会に出てから役に立つ力を持った生徒を。
- ・スペシャリストである一方、ゼネラリストである生徒を。企業にとってはどちらも必要。
- ・他の地域からも上伊那に来てもらえるような魅力ある教育を。
- ・専門的な教育は基本的なことだけでよい。その後は企業で教える。
- ・将来の目標が定まっている生徒だけでなく、定まっていない生徒が3年間の高校生活を通して自分の将来を決めて進んでいけるような教育を。
- ・地域社会の中で様々な経験をする学習を通して、将来は社会(企業)に貢献できる人材を。
- ・内面を育てて社会に出られるように。

<設置学科について>

- ・高校に入学後に様々な体験を通して自分が学びたい専門教科を決めることができる体制と、1年次から専門性を追求することができる体制とどちらも大切。専門性は高めたい。
- ・ICT、情報系の学びに特化した学科・コースを。一方で全ての学科・コースで情報教育の充実を。
- ・6次産業の取組を。そのためには基礎的な学びの充実を。
- ・起業家教育を。

<地域との連携の在り方について>

- ・異分野の学びも取り入れ、地域との連携も重視した学び。

<その他(学びの環境づくり等)>

- ・中高生にとって大人が考える以上に制服に対しての想いは強い。生徒の意思も尊重して。
- ・農、工、商の3学科がただ同じ学校にあるだけではなく、例えば3学科のコースの生徒が1つのグループになって課題研究に取り組む等の連携を。

### 今後の検討事項

◎今までにいただいた意見・アンケート結果を参考に、新校の学びのイメージを立案していく。

### その他

【次回】 会場・日時:未定(後日連絡)

内容:新校の学びのイメージについての意見交換

## 第7回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会 (R4.11.29) グループ討議記録

(意見交換シート記述も含む)

○育てる生徒像や学校像に対する意見

・設置学科についての意見

\*地域との連携の在り方について

◇その他(学びの環境づくり等)の意見

グループで出た意見	
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の将来に向かって希望がかなうように育てほしい。</li> <li>○中学校までに学んだ探究してきた事項(探究学習)を引き続き学ぶ・考えられる・取り組める学校。学べる学校・学ぶ生徒</li> <li>○専門性と人間力・社会性を持ち合わせた生徒を育てる。</li> <li>○地域と関わりながら学ぶ生徒・学べる新校</li> <li>○起業学科・ビジネススクール的な学びを取り入れて、未来につながる地域人材を育成する。</li> <li>○スペシャリストとジェネラリストの育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・起業家学科、アントレプレナー学科の導入(産業をつなげる学習プランの導入)</li> <li>・情報系学科はどうするのか。</li> <li>・情報系学科の取り扱いへの配慮。(重要な学習要素であるため。)これまでの学科の在り方(駒工・情報科)で設置するのか、新校における他の専門分野と繋がった新たな学科として設置・設定するのかを研究・検討し、将来につながる新学科を作してほしい。</li> </ul> </li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域に根付く学校</li> <li>○ジェンダーレスの学校</li> <li>○地域性と国際性を両立できる人材育成</li> <li>○服装、生活態度に自信をもって活動できる生徒</li> <li>○「ああこれが使えるのか」と他科と連携できるスキルをしっかりとつける学びの場</li> <li>○内面が育つ教育に期待               <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業・農業・商業の枠にとらわれない学び</li> <li>・産業スタイルの一連の流れを同一校内で完結できることは強み</li> <li>・農、工、商を交えた取り組みができたとしても良い</li> </ul> </li> <li>*農、工、商マルチに動ける生徒がいるという強みを活かし、スマート農業や自動化へ向けた社会のために地域の方の取り組みとコラボ、協力が出来たら良い。</li> <li>*地域社会が生徒を縛り付け過ぎない環境を用意していただきたい。</li> <li>◇制服に対する意識が中高生を中心に大人が思っている以上に高い</li> <li>◇制服等の着こなしが授業態度に出ているという印象を強く受ける</li> <li>◇体験、特に失敗から学ぶことが多く、それが学習の動機になるため、体験を1年生2年生前までに多く盛り込めるカリキュラムが望ましい。後半で基礎を学び直すような体制はどうか。</li> <li>◇いろいろな興味を持つ生徒が混じり合うほど楽しく学べ広い知見が得られる</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の可能性を信じ、学びを深めることで自己肯定感を持てる生徒の育成。クラブ活動や課外活動など点数として表れない部分でも力が培われる。</li> <li>○社会人基礎力や忍耐力、対応力、耐性力を身に付ける</li> <li>○専門性を活かした学びを通して社会で活躍できる人材の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的学習の充実した学科。</li> </ul> </li> <li>◇個々の適性や興味・関心などによって様々な授業を選択できるようにする</li> <li>◇学科において、授業を自分自身で選択できる学びのシステム化</li> <li>◇入学後でも、学科を決められる</li> <li>◇個々の適性や興味・関心などによって様々な授業を選択できるようにする</li> <li>◇学科において、授業を自分自身で選択できる学びのシステム化</li> <li>◇学科にとらわれない柔軟な学びを通して、その後の選択肢を多く設けられる</li> <li>◇入学後でも、学科を決められる</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自立・自分で考えて行動できる(主体性)</li> <li>○応用のできる人</li> <li>○人間力、吸収力等、社会に出て役に立つ力を持つ生徒の育成</li> <li>○コミュニケーション能力の育成</li> <li>○3年間の生活を通して、自分の将来を決めて進んでいけるような生徒の育成</li> <li>○自己肯定感の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・酪農には、コンピュータ、機械、経営の知識が必要。3学科連携の学びは必要。</li> <li>・電気系を電子系と電力系の2つに分ける</li> <li>・3つの専門性→起業(ビジネス)が出来るような学科</li> </ul> </li> <li>*異分野との交流も取り入れてほしい</li> <li>◇科を越えたくくり募集をし、入ってから科を選ぶことはどうか。</li> <li>◇課題研究 3科連携</li> <li>◇途中で工業科→商業 とか、農業科→工業 に変更して学ぶことはどうか</li> <li>◇専門科「25単位(最低)」の上で連携をはかる。農・工でものづくり、商で売る</li> </ul>

○育てる生徒像や学校像に対する意見

・設置学科についての意見

\*地域との連携の在り方について

◇その他(学びの環境づくり等)の意見

グループで出た意見	
E	<ul style="list-style-type: none"><li>○基本的な技術を持ち、専門性を磨いたり、幅広い視野を持ち、豊かな発想力を養うなど、自己の可能性を追求し、地域や社会に役立てることのできる生徒</li><li>○専門知識をベースに、多様な観点から地域の基幹産業である製造業、農業の発展に貢献できる持続可能な地域社会作りに資する生徒</li><li>○個性的で企業を起こせる人。スペシャリストの人材。マネージャーの人材。開発思考の生徒</li><li>○世界に通用する生徒。地域で即戦力になる生徒。新しい産業又は上伊那の衰退する農業を将来的に成長産業にできる生徒。ビックデータの時代、データ活用ができる生徒</li><li>○「上伊那独自の専門学校」にする事で、郡外・県外からも生徒を集められる学校<ul style="list-style-type: none"><li>・自由に専門技術を選択、組立が可能な「総合技術学科」</li><li>・基本的な実践+応用力。上伊那・日本中からも注目される学校を</li><li>・機械、電気、情報、蓄電池や半導体関連を学ぶことができる学科</li></ul></li><li>*地域の企業、商店、農家で実習学習する中で協働して課題を解決</li><li>*地域企業等との連携、市町村等と連携した地域課題解決のための取り組み</li><li>*信大・南信工科短大などの学術機関との連携</li></ul>
F	<ul style="list-style-type: none"><li>○主体的、能動的に実践力ある生徒</li><li>○基礎的な知識を習得できる学校。より専門性の高い知識については、就職者は企業が育てる。進学者は上級学校(大学・短大・専門学校等)で学ぶ</li><li>○コミュニケーションや表現力のスキルが高い生徒</li><li>○ITリテラシー教育を通じ、情報の伝え方を学びながらIT機器の活用スキルを高める</li><li>*生徒の探究学習をより深められるために、地域とつながっているキャリア支援コーディネーターの設置は不可欠と考える。そこから、地域の企業や、小中学校、短期大学、大学との教育機関等へアプローチができるのではないか</li><li>◇1年次は普通科の授業を充実させながら、キャリア教育的時間(農業・工業・商業を体験的に学べる)を組み込みながら、1年の後半から、生徒の興味関心がある教材を扱う</li><li>◇(各学科)コース学習の中で探究的な学びができる教育システムを検討してはどうか</li></ul>
G	<ul style="list-style-type: none"><li>○専門分野の枠を超えた職業能力を持った若者の育成</li><li>○単なる知識の習得だけでなく、人間性(協調性、積極性)を高めることができる体験型の学び</li><li>○自分のやりたいことを追求していく生徒</li><li>○周囲の人々と協力しながら社会を作っていくとする生徒</li><li>○様々な体験を経験し、視野を広く持てる生徒</li><li>○自分の経験を活かし高校を卒業したのちも人生の選択ができる生徒<ul style="list-style-type: none"><li>・農工商に加えて土木系の学科</li><li>・1年次、様々な事を幅広く学ぶこと、1年次から、専門性を追求することをどのように実現すべきか。</li></ul></li><li>*地域の課題を高校が解決に乗り出すような連携</li><li>*深い学びのために地域の企業が入り込む</li><li>*信大農学部や南信工科大学との連携</li><li>*設置自治体だけでなく、上伊那地域全体で交流できるとよい</li><li>◇すべての基礎に情報がある 情報を基礎学科とすべき</li><li>◇1年で幅広く、2~3年でだんだんに専門に</li><li>◇農工商の科目に触れることは経験を増やすという意味では有意義だと思うが、反面、中途半端になるのではという危惧がある。</li><li>◇先進的な学校があれば、それぞれのモデル的なものを示して欲しい。具体的なものが見えないので、議論が深まらない</li></ul>

## 上伊那総合技術新校 再編実施計画に係る学校像の意見のまとめについて

	協議会からの意見・提案	再編・整備計画 【二次】	懇話会での意見 (下線部分は、第7回懇話会で追加した意見)
目指す学校像	○各産業界と共に地域一丸となって専門分野の枠を越えた汎用的・多面的な職業能力を育成することができるような、規模の大きさを生かした持続性と発展性のある学校	○農業・工業・商業の3学科のそれぞれの専門性の向上と、学科間連携の充実により、新たな時代に新たな価値を共創する力を育む産業教育の拠点校	○自分の好きを探究することができる学校 ○最先端の専門分野が学べる学校 ○生活にも活かせる学び ○自己肯定感を高める取り組み。素敵な刺激が必要 ○専門性を磨く学校 ○各校の伝統ある専門性を磨き、加えて統合による化学反応が起こる学校 ○農・工・商の連携できる新しい学校 ○障がいを持つ方も含めた、多様な人が来なくなる、来やすい学校 ○基礎を学べ、自分で選択できる学校 ○作って売れるまでできる学校。商品が売れる仕組みが分かる学校 ○小・中学校での探究を引き続き取り組める学校 ○単なる知識の習得だけでなく、人間性(協調性、積極性)を高めることができる体験型の学びを <u>実践する学校</u> ○ジェンダーレスの学校 ○地域に根付く学校 ○互いの学科の枠を越えた学び
育てる生徒像	○高校での学びを基盤として、地域の産業を支える人材の育成 ○専門分野の枠を越えた汎用的・多面的な職業能力の育成	○学科の枠を越えた学びにより、「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等の調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献する資質・能力の育成 ○汎用的・多面的な即業能力を備えた産業界の担い手の育成 ○上伊那テクノバレー新時代の中核となる、知識と行動力を身に付けたイノベーション人材の育成	○国内だけでなく海外に向けて発信できる、リーダーの育成 ○地域を成り立たせる人材の育成 ○自分の将来に向かって、希望に進んでいける生徒の育成 ○小・中学校での探究を引き続き取り組める生徒の育成 ○専門性と人間力・社会性を持ち合わせ、社会貢献できる生徒の育成 ○自分の可能性を信じ、学びを深めることで自己肯定感を持つ生徒の育成 ○社会人基礎力や忍耐力、対応力、耐性力を身に付けた生徒の育成 ○主体的に行動でき、コミュニケーション力や表現力を持つ生徒の育成 ○基礎的な技術を持ち、専門性を磨き、幅広い視野を持つ豊かな発想力を持つ生徒の育成 ○個性的で起業できる生徒の育成 ○データ活用ができる生徒の育成 ○専門分野の枠を越えた職業能力を持った生徒の育成 ○周囲の人々と協力しながら社会を創っていかうとする生徒の育成 ○生活態度に自信を持って活動できる生徒

	協議会からの意見・提案	再編・整備計画 【二次】	懇話会での意見 (下線部分は、第7回懇話会で追加した意見)
設置学科	○農業、工業、商業がバランスよく発達した上伊那地域では、地域の重要産業各分野の担い手確保のため、将来にわたり専門教育を維持するとともに、例えば、農業の6次産業化への対応等、時代にふさわしい教育環境の整備が必要	○上伊那地区の専門学科を集約し、地域の中でバランスよく発達してきた農業・工業・商業の3学科のそれぞれの専門性の向上	○各々の学科がつながり、連携をとる横断的な学びが必要 ○各々の学科の特徴をはっきりさせ、その上で連携を考える。 ○情報関連の科目がトレンド ○企業とのつながりをもつ実践的な科目ができるとよい ○建設に関わる学科、情報系に関わる学科、アパレルデザイン、ゲーム・音楽などのデザイン、語学力をつけるような学科が必要ではないか。これらを最初に体験できる教育システムの構築 <u>○起業家学科、アントレプレナー学科の導入</u> <u>○情報系学科</u> <u>○体験的学習の充実した学科</u> <u>○電気系を電子系と電力系の2つに分ける</u> <u>○基本的な実践+応用力。日本中からも注目される「上伊那独自」の総合技術高校</u> <u>○機械、電気、情報、蓄電池や半導体関連を学ぶことができる学科</u> <u>○総合技術学科（仮称）のような一まとめの学科</u> <u>○土木系の学科</u> <u>○情報を基礎学科とすべき。（すべての基礎に情報がある）</u>
地域との連携の在り方	○企業等地域の産業界と連携した学びにより、意欲のある生徒がさらに専門性を高めていける仕組みの構築	○地元自治体や産業界等の地域のプラットフォームと連動したデュアルシステムや協働的な学び、分野最先端の学びなどを構築	○伊那の企業は世界基準、ライバルは世界で、トップレベル。これらの企業とコラボし、職業体験のチャンスを広げてほしい。 ○一度外に出ても帰ってこられる環境・地域の魅力づくり ○今の延長線上で、さらに地域の方々にかかわりを持ってほしい ○Uターン、残る人を育てる観点 <u>○スマート農業や自動化に向けた社会のために地域の方と取り組みたい。</u> <u>○地域社会が生徒を縛り付け過ぎない環境を用意してほしい。</u> <u>○異分野との交流</u> <u>○地域の企業、商店、農家で実習学習する中で協働して課題解決</u> <u>○地域企業、自治体等と連携した地域課題の解決</u> <u>○信州大学、南信工科短期大学などの学術機関との連携</u> <u>○地域とつながるキャリア支援コーディネータの設置が不可欠</u> <u>○深い学びのために、地域の企業が入り込む仕組み</u> <u>○新校が設置されている自治体以外の上伊那地域全体での交流に期待</u>

	協議会からの意見・提案	再編・整備計画 【二次】	懇話会での意見 (下線部分は、第7回懇話会で追加した意見)
学びの環境づくり	<p>○課題研究は、その成果も含めて高く表できる。今後、さらに、面的な広がりや質を高めることが必要</p> <p>○「新たな学び」の推進のために、教員がそれぞれの専門的な知識や技能を活用し、チームとして連携、協働し、組織的に対応していくことが必要</p>	<p>○農業・工業・商業の3学科のそれぞれの専門性の向上と、学科間連携の充実</p> <p>○学科の枠を越えた学び</p> <p>○デュアルシステムの導入</p>	<p>○海外との交流をもっと盛んにしてほしい</p> <p>○言葉の壁（英語等）を越えて、自由に外国とコミュニケーションが取れる環境</p> <p>○人気の科は希望者が多いが、人数調整するのではなくできるだけ望んだ学びを保障してほしい。</p> <p>○<u>制服に対する意識が中高生を中心に大人が思っている以上に高い。</u></p> <p>○<u>体験的学習を1、2年生までに多く盛り込めるカリキュラムがよい。</u></p> <p>○<u>個々の特性や興味・関心などによって、様々な授業を選択できるようにする。</u></p> <p>○<u>入学後でも、学科と決められる。</u></p> <p>○<u>科を越えたくくり募集で、入ってから科を選べる仕組み。</u></p> <p>○<u>課題研究の3科連携</u></p> <p>○<u>専門科25単位（最低）の上で、連携を図る。農・工でものづくり、商で売る。</u></p> <p>○<u>1年次は普通科の授業を充実させながら、キャリア教育的時間（農業・工業、商業を体験的に学べる）を組み込みながら、1年の後半から、生徒の興味・関心がある教材を扱う。</u></p> <p>○<u>コース学習の中で探究的な学びができる教育システムの検討</u></p> <p>○<u>農工商の科目に触れることは経験を増やすという意味では有意義だと思うが、反面、中途半端になるのではないかという危惧がある。</u></p>

## 第1回 上伊那総合技術新校 校地検討会議まとめ

日 時	令和4年(2022年)11月29日(火) 16時30分~17時40分
場 所	長野県伊那合同庁舎 501・502 会議室
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 校地検討会議の開催要綱について</li> <li>(2) 部会長選出 ⇒ 笠原千俊伊那市教育長を選任</li> <li>(3) 校地選定に係る基本的な考え方について</li> <li>(4) 統合新校(一次分)の校地検討状況について</li> <li>(5) スケジュールについて</li> </ul>
確認されたこと	<p>○校地検討会議として、「校地は一つを基本」、「現校地を原則として検討」、「辰野、箕輪進修は候補から除外」、「校地検討会議及び懇話会での十分な意見交換を踏まえて、校地は県教委が決定」を確認。</p> <p>○両校の校地面積、駅などの主要施設からの距離データなどの客観的な基本データを県が提示し、検討に関わる作業を確認し、検討の視点などの意見交換をする。</p>

## 第2回 上伊那総合技術新校 校地検討会議まとめ

日 時	令和4年(2022年)12月20日(火) 16時30分~17時30分
場 所	長野県駒ヶ根工業高等学校 会議室
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1回校地検討会議のまとめについて</li> <li>(2) 基本データについて</li> <li>(3) 施設見学について</li> </ul>
確認されたこと	○資料集(基本データ)は、校地選定の意見交換において客観的データとして、今後の意見交換に活用していく

## 上伊那総合技術新校の学校像のイメージ（たたき台）

## 育てる生徒像

- 専門性と人間力・社会性を持ち、「上伊那をデザイン」できる生徒
- 主体的に行動でき、周囲の人々との協働を通して、学び続ける生徒
- 幅広い視野や、多様な価値観を持つ、未来志向の生徒
- 上伊那から学び、上伊那を元気にすることができる生徒



## 目指す学校像

- 自分自身の将来と地域・社会の未来をクリエイトできる学校
- 地域の力を活かし、先端技術に触れ、個別最適な学び・協働的な学びを通して成長できる学校
- 専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農・工・商の連携による社会のイノベーションに貢献できる人を育てる学校
- 多様な生徒が生き生きと生活でき、個人や社会のwell-beingを実現できる学校



## 新校での学び（設置学科）

## 専門性の深化と学科連携による汎用性の拡充 地域課題を探究し地域に貢献する学び

## ◇農業科

- ・野菜、果樹、草花、水稻などの生産物、動物、食品、里山環境を教材とした、栽培、飼育、食、環境、地域活性化についての学び。
- ・実習や実験、地域での実践的な活動や交流活動を取り入れた探究学習。

## ◇工業科

- ・工業系の基礎的な知識と技術を習得し、「ものづくり」を中心とした実践的な学びを大切にしていく。機械系の加工・溶接・鋳造、電気系の電気エネルギー・電子回路・マイコン制御、情報技術系のプログラミング・ネットワーク技術・AI活用等

## ◇商業科

- ・ビジネスの知識と技能に基づき、学校内外での実践的な学習や探究学習を通じて、ビジネスの推進能力と新しい価値を生み出す創造力を身に付ける。
- ・ビジネスの視点と創造力で、地域の発展や課題解決に取り組む学び。

## ◇新学科（3つの学科を結節するDXを活用し、農工商を融合した学び）

- ・農・工・商について探究的・横断的に学び、新しい価値の創生と地域課題の解決に繋がる研究。起業に係る実践的な取り組み。
- ・ビッグデータの分析・活用、IoTや仮想空間（メタバース等）を利活用する学び

## 学びを支えるために考えられる取り組み等

- 他校の学修の単位互換を含む、新たな単位認定
- 単位制
- くくり募集
- コース制
- デュアルシステム
- 長期インターンシップ
- 模擬会社の運営
- ミックスホームルーム
- 幼保小中（異年齢）や養護学校との交流学习
- 国際交流
- 上伊那8市町村との連携
- 信州大学・南信工科短期大学等との連携
- 地域連携に関わるコーディネータの設置